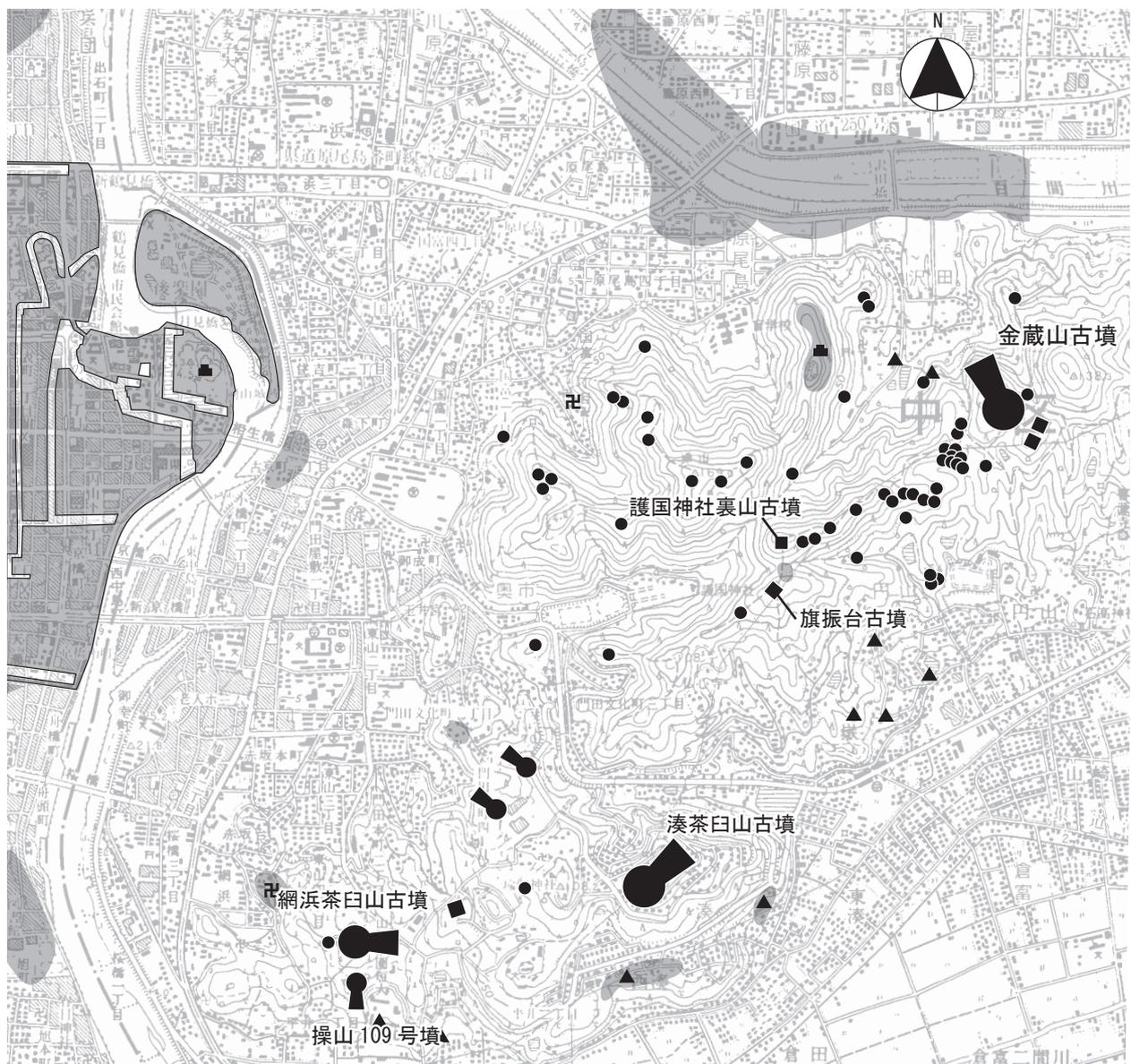


かな くら やま こ ふん
金蔵山古墳

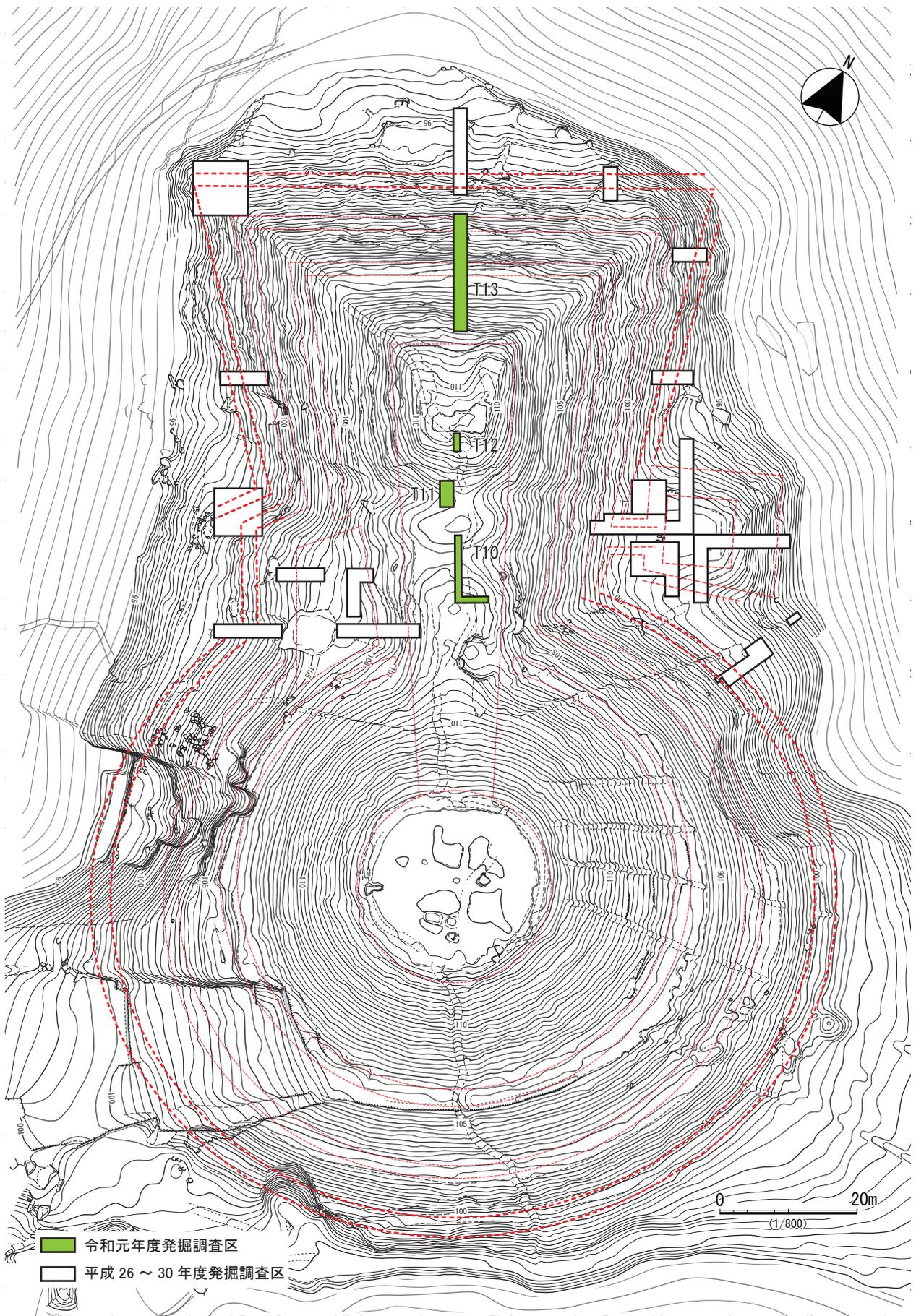
範囲確認調査（第6次）現地説明会資料

古墳の概要

操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長158mといわれ、四世紀後半から五世紀初頭に造られた古墳と考えられています。造山古墳の築造以前では中国、四国、九州地方で最大の古墳です。明治期以降数多くの出土品が出土したといい、昭和28年には倉敷考古館を中心に発掘調査が行われました。発掘調査は後円部墳頂を中心に行われ、2基の竪穴式石槨、副葬品用の小石室、それぞれの石室を囲む埴輪列などが見つかり、多量の副葬品、多彩な埴輪類が出土しています。現在、古墳全体が山林となっていますが、吉備を代表する古墳のひとつであり、墳丘の外表施設や埋葬施設などの遺構、副葬品や埴輪類などの遺物は、学術的・学史的にも非常に価値が高く、保護や活用を図っていくことが課題となっています。



金蔵山古墳と周辺の遺跡



金蔵山古墳の墳丘と調査区の位置

発掘調査の概要

岡山市教育委員会では金蔵山古墳の墳丘の規模、形態、構造等を追求し、将来は史跡等の保護の措置を図っていく計画で発掘調査を実施しています。これまでの調査では、前方部の西側に造り出し、東側に島状遺構が付属することや、くびれ部から前方部にかけての墳端の状況の詳細が判明しました。

各トレンチの調査成果

トレンチ 10 古墳の主軸に直交する形で前方部の鞍部には溝状のくぼみがあり、城郭の堀切にあたる遺構が検出されました。

トレンチ 11 トレンチ 10 と同様に墳丘の現状としては堀切の痕跡がみられますが、その下方で最大で 40 cm 大の主に花崗岩の割石が集中する形で確認されました。遺構の性格としては、葺石の埋没した状態、または古墳の内部構造に関する遺構の可能性が考えられます。

トレンチ 12 前方部の墳頂部に位置する壇状の高まりが古墳本体に伴うものか、古墳よりも後の時代の造成によるものか判断するために調査区を設定しました。墳頂部を掘り下げると円礫や割石を使用した遺構がみつき、その帰属する時期は古墳時代に求めることができます。

前方部の墳頂部に顕著な高まりをもち、それを調査した大型古墳の例はほとんどありません。本古墳の例は、前方部におけるこうした構造物の意味を考える上で重要な手がかりとなるでしょう。その詳細に関しては、今後の調査により明らかになることが期待されます。

トレンチ 13 第 2 次調査の際、前方部前端における墳端構造の一部が検出されています。今回のトレンチはそれより上部に位置し、前方部墳頂近くまでのびる調査区です。前方部における段築の様相、関係する斜面の葺石や平坦面の埴輪列といった外表施設の状況を追求しています。

〈墳端テラス～第 1 段斜面〉

これまでの調査で金蔵山古墳の墳端部分には段が付属し、その上面には埴輪列や円礫敷きが伴うなどテラス状の構造をもっていることが分かっています。第 2 次調査で確認された墳端は後世の改変が著しく、また今回のトレンチにおいても第 1 段斜面の葺石は大きく損なわれている状況が明らかになっています。

〈前方部下段平坦面～第 2 段斜面〉

第 2 段斜面葺石の内、基底石近くの構造は失われていますが大半は残存しています。平坦面においては埴輪列を検出しました。6 本分の埴輪は掘方をもたず、平坦面の構築過程で据えられたものとみられます。葺石と埴輪列の間には円礫堆が存在します。

〈前方部上段平坦面～第 3 段斜面〉

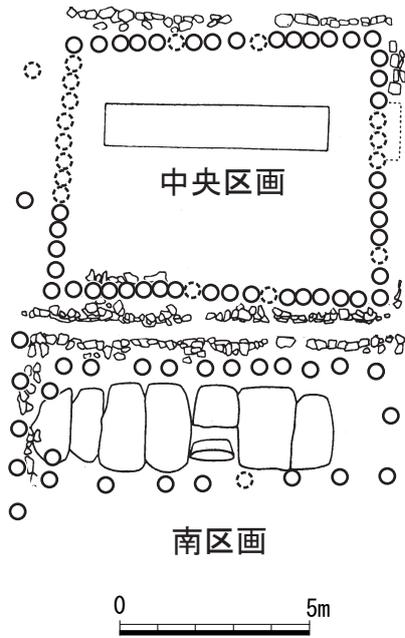
第 3 段斜面の葺石はかなりの削平を受けています。前方部上段平坦面には円礫堆がわずかにみとめられ、埴輪列も配置されていたものと考えられます。

トレンチ 13 の調査成果からは前方部が三段になることが分かります。また、発掘では備前焼などの遺物も出土していることから、古墳の墳丘が後の時代に中世墓として利用され、さらにその後、城郭の造成の際に手が加えられた可能性が想定されます。

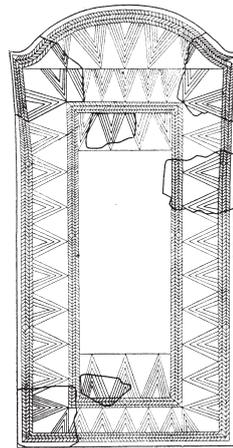
まとめ

今年度の発掘調査では、これまで未調査であった前方部墳頂部周辺を発掘し、墳頂部の壇状の高まりの大部分が古墳の墳丘に伴う可能性が高まりました。また、前方部斜面の葺石や平坦面の埴輪列を検出しており、前方部は三段で復元することができます。

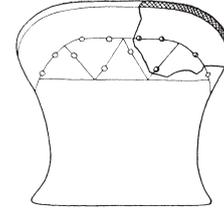
出土埴輪は、埴輪列に伴う個体以外は原位置から流失したものです。その中には、円筒・朝顔形・建物形・盾形・甲冑形・鞍形・蓋形埴輪などの破片が含まれます。



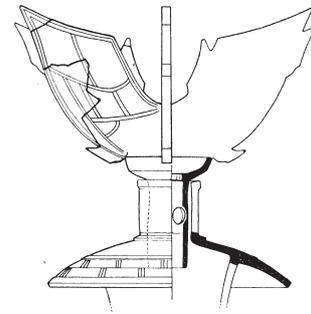
後円部墳頂における
埋葬施設と区画の配置



盾形



甲冑形

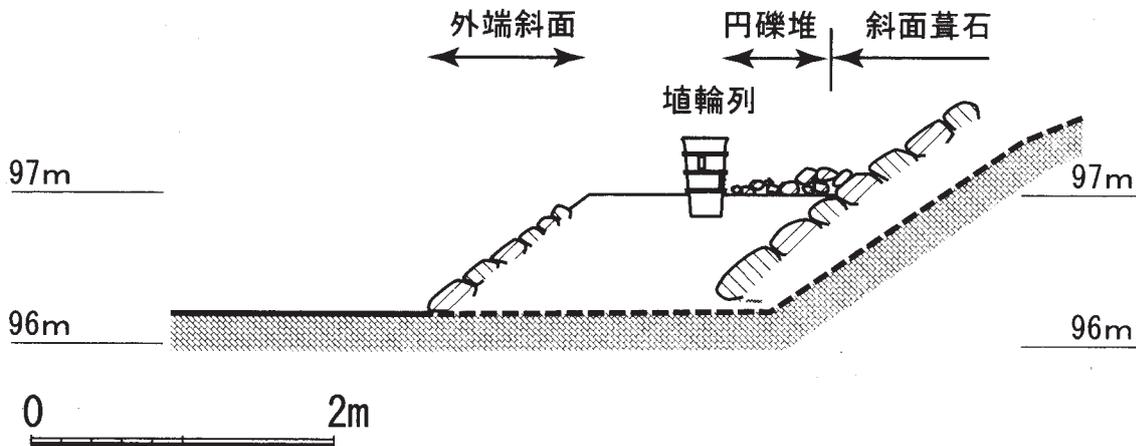


蓋形

南区画における形象埴輪の例

倉敷考古館 1959『金蔵山古墳』より引用一部改変

前方部墳端 (T4 ほか)



墳端テラスの構造模式図